

第25回 夏季デフリンピック競技大会 東京2025 開催基本計画（概要版）

（一財）全日本ろうあ連盟
東京都
（公財）東京都スポーツ文化事業団

- デフリンピックは国際ろう者スポーツ委員会が主催し、夏季と冬季それぞれ4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際大会である
- 日本では初めての開催であり、また1924年にパリで第1回大会が開催されてから100周年となる、歴史に残る大会である
- 本大会の運営にあたっては、適切なガバナンス体制を確保するとともに、この大会の開催を契機に、デフリンピックやデフスポーツへの理解のすそ野を広げ、障害のあるなしに関わらず、共にスポーツを楽しむ、互いの違いを認め、尊重しあう共生社会づくりに貢献していく

大会概要

正式名称	第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 (略称) 東京2025デフリンピック
期間	2025年11月15日～26日（12日間）
参加国	70～80か国・地域
参加者数	各国選手団等：約6,000人 (選手約3千人、ICSD役員・SD・審判・スタッフ約3千人)

大会エンブレム



人々の繋がりを意味する「輪」をテーマに、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表している。デフリンピックを通して「輪」が繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現した。

大会ビジョン

1. デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ
2. 世界に、そして未来につながる大会へ
3. “誰もが個性を活かし力を発揮できる” 共生社会の実現

競技会場等

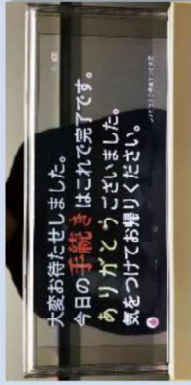
競技名	会場	競技名	会場
0 開閉会式	東京体育館	11 柔道	東京武道館
1 陸上	駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場 等	12 空手	東京武道館
2 バドミントン	武蔵野の森総合スポーツプラザ	13 オリエンテーリング	日比谷公園、伊豆大島
3 バスケットボール	大田区総合体育館	14 射撃	味の素ナショナルトレーニングセンター・イースト
4 ビーチバレーボール	大森東水辺スポーツ広場	15 水泳	東京アクアティクスセンター
5 ボウリング	東大和グランドボウル	16 卓球	東京体育館
6 自転車（ロード）	日本サイクルスポーツセンター	17 テコンドー	中野区立総合体育館
7 自転車（MTB）	日本サイクルスポーツセンター	18 テニス	有明テニスの森
8 サッカー	J ヴェルディ	19 バレーボール	駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館
9 ゴルフ	若洲ゴルフリンクス	20 レスリング (フリースタイル)	府中市立総合体育館
10 ハンドボール	駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内競技場	21 レスリング (グレコローマン)	府中市立総合体育館

デフリンピックを通してめざすもの

「シンプルで心に残る大会」をめざすとともに、全ての人が輝くインクルーシブな街・東京の実現に貢献

みんながつながる

東京2020大会で使用された様々なデジタル技術も活用して、「誰もが円滑につながる大会」を実現。「誰もが大会を楽しめる技術」の開発や、デフリンピックスクエアで技術の展示・PRを行う。



世界の人々が 出会う

選手や関係者などを、おもてなしの心で迎え、芸術文化や食、観光資源など、東京の持つ魅力を感じてもらい、世界との絆を深めていく。



子どもたちが 夢をみる

都内や被災地の子どもたちの競技観戦や、選手入場時のエスコートキッズなどの機会を設け、デフスポーツの魅力を感じてもらうとともに、またとない経験を届ける。



未来へ つなぐ

デフスポーツやろう者の文化への理解促進、環境への配慮などに取り組むことで、「未来につながる大会」を実現。



みんなで 創る

デフアスリートなどとともに大会計画を検討。多様な人々がボランティアとして活躍できる機会を設けるなど、多くの都民・国民の理解と参画のもと、大会を創り上げる。



大会の意義を都民・国民に発信するとともに、大会の開催気運を盛り上げていくための様々な取組を展開していく

みんなで大会を盛り上げる

大会の意義や魅力を伝える

応援アンバサダーなどを通じ、大会の意義や魅力を伝える。大会エンブレムを用いた広報PRツールの活用、デフアスリートと子供たちとの交流や競技体験など、大会への関心を高める取組を幅広く展開。



共生社会について考える

ろう者の文化を身近に感じてもらえるよう、デフアスリートの活躍やろう者の社会活動を紹介。手話単語を簡単に学べる動画やデフリンピックなどをテーマとしたハンドブックを制作し、様々な機会に活用・発信。



サポートの輪を広げる

競技団体、区市町村、当事者団体などと連携した取組の展開や、寄附・クラウドファンディングなど、より多くの人々が参画し、大会を創っていくための仕組みづくりを進める。



大会運営関連

国内デフ競技団体はもとより、国内の各競技団体から協力を得ながら連携体制を構築し、協議の上、競技を運営していく。

東京2025デフリンピックならではの体験を得られる機会を提供するとともに、世界中の様々な人々にデフリンピックの魅力を広く発信する。

選手が各種サービスの提供を受けられるとともに、選手同士の交流などができる拠点として、デフリンピックスクエアを設置する。

選手団及び大会関係者に対して、安全、円滑、確実な輸送サービス、競技に集中できる宿泊サービスを手配する。